

歯科支援チームも避難所訪問で活躍

現地支援レポート（東京民医連：及川正彦）

3月26日から代々木歯科・川島歯科チームが支援に合流。夕方現地に着き、すぐ打ち合わせに参加しました。現地職員と相互歯科からの支援者から午後の活動の報告がありました。避難所の様子や被災地の状況を涙ながらに語る支援者もいました。



27日午前中は松島の井上歯科医師・佐藤衛生士と東京の支援者5名（妹尾歯科医師、高木・黒澤衛生士、永江事務長、及川）は石巻市へ。市の健康増進課にあいさつ、その紹介で避難所になっている石巻専修大学と石巻商業高校をまわり、歯科治療と入れ歯洗いなどを行いました。

石巻専修大学避難所は高齢者が多く、入れ歯洗いの希望者が多数あり、治療も2件ありました。医療は日赤が入っていました。佐々木技工士は終日診療所片付け、ガソリン確保と大活躍でした。

午後は石巻商業高校の避難所へ。比較的若い人が多く治療が6人、入れ歯洗い希望者も多数ありました。同校の先生が避難所の世話役をしており、養護教諭の先生に大変感謝されました。

28日も石巻の避難所を訪問予定です。

被災者の医療機関での受診・窓口負担について（情報）

田村智子参議院議員事務所より3/25厚生労働委員会議事録が寄せられました。大きな前進です。

（田村議員）昨日、医療費の窓口負担のことでお聞きをいたしました。（中略）医療機関の中には、被災者だと判断をして猶予、まあ事実上の免除になるでしょうと、そういう手続やった、ところが保険者の方からレセプトはねつけられて確認が不十分だと、結果として医療機関の持ち出しになってしまうんじゃないかと、こういう不安の声がまだ相当聞かれているんです。是非、医療機関がこの方はもう猶予だと、窓口負担徴収するわけにいかないと判断した場合はそれを尊重すると、保険者がはねのけるようなことをしないと、これは是非御答弁いただきたいんですが、いかがでしょうか。

（大塚副大臣）それはもう仕組み上は先生のおっしゃるとおりで、被災された御本人の申請で、私は被災者ですと、今払えませんと、したがって窓口負担分は今払えませんということになると、その御本人の窓口負担分も含めて医療機関は審査支払機関に請求をして全額を受け取れるという仕組みになっておりますので、医療機関とそれから審査支払機関、さらには保険者にも周知徹底させていただきます。